



**うどん 野村屋**  
 TEL 0283-22-0396  
 住 佐野市相生町2819  
 営 平日 11:00~(LO)19:15  
 土日祝 11:00~(LO)19:30  
 第4水曜日 11:00~(LO)14:30  
 休 木曜日(祝日は営業)



うどん日本一を競う  
 「U-1 グランプリ 2013」で  
 佐野名物「耳うどん」が  
 売上部門8位に!!

正月三が日に悪魔の耳になぞらえて「耳うどん」を食べる奇習で、悪魔の耳を食べてしまえば我が家の話を悪魔に聞かれないのでその年は無事息災で過ごせる。

**手打唐沢うどん そば かさはら**

TEL 0283-22-3707  
 住 佐野市堀米町2206  
 営 11:00~14:00  
 16:00~19:00  
 休 火曜日



大根そばとは、そばとほぼ同じ形に切った大根をゆで、そばを混然一体に混ぜたものです



大根そば 650円

かさはらの大根そばは、訪れた人のほとんどが注文するほどの人気商品です。100円アップでできる、大根そば大盛も人気です。麺は、大量の注文をまとめて茹でるため、少しやわらかめです。一緒に茹でた大根の千切りがシャキシャキして蕎麦との歯応えの差を楽しめます。そばつゆは優しい味で、そばをたっぷり浸けるようになっています。大根そばができたキッカケは、お腹をいっぱいにするために大根を混ぜたことが始まりなのだそう。

**味噌まんじゅう 新井屋** (佐野本町店)

TEL 0283-22-9069  
 住 佐野市本町2942  
 営 9:00~18:30  
 休 月曜日(祝日は営業、翌日休み)



「味噌まんじゅう」は、初代の野部林吉が考案した配合で作られた秘伝のみそまんじゅうです。味噌はあくまでもおまんじゅう全体の味を調えるために隠し味程度に使用してありますので、はっきりいって、味噌の味はあまりしません。全国には数多くの『味噌まんじゅう』がありますが、当店のものはオリジナルの味噌まんじゅうです。昭和4年の創業時より、変わらぬ味を守り続けています。



耳うどん 740円

テレビにも取材されました

朝日建設(株) 藤沼正人さん



株式会社 久保田組 久保田彰彦さん

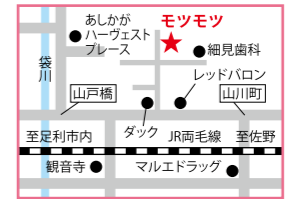
丸山建設工業の専務の奥さんが毎日煮込んでいます



もつ煮 550円

**もつ煮** (テイクアウト)

TEL 0284-41-8399  
 住 足利市山川町869 (丸山建設工業敷地内)  
 営 10:00~18:30  
 休 日曜日



丸山建設工業(株)の敷地内にあるもつ煮のお店。女将は専務の奥さんです。建設業の傍らに煮込んでいます。テイクアウトのみです。

**地元根付く 栃建協 本当は教えたくない**

**炭火焼肉 あぶり屋**

TEL 0283-62-2129  
 住 佐野市田沼町817-8  
 営 11:30~14:00 (LO13:30)  
 17:00~23:00 (LO22:00)  
 休 月曜日(祝日は営業、翌日休み)



ポークソテー 280g 1,500円

あぶり屋名物 ポークソテー

(株)落合土木 落合充樹さん

ホーエ豚という種類の肉で非常に柔らかいです。通常、ポークソテーといえば、ニンニクが多く使われていますが、特製の隠しダレは柑橘系の風味が効いていて、サッパリといくらでも食べることができます。



**会員行きつけの 佐野・足利グルメスポット**



**めん割烹 なか川**

TEL 0284-41-2322  
 住 足利市通2-2659  
 営 11:00~21:00  
 休 火曜日(祝日は営業)

相田みつを ゆかりの店

天ぬき御膳 2,000円



(株)金子建設 金子勇さん

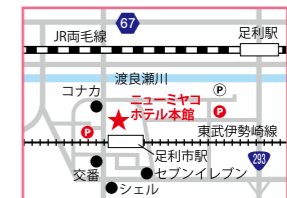
相田みつを先生がなか川へ最後に尋ねて来た時、なか川の4代目に向かって「ここが私の出発点」と、幾度となく語ったそうです。人間・相田みつをが食べていた料理を楽しめる店です。一番人気の「相田みつをオススメ御膳」をどうぞ。私は「天ぬき御膳」を食べながら日本酒をいただきました。

**ニューミヤコホテル本館**

TEL 0284-71-3333  
 住 足利市南町4254-1  
 営 11:30~14:30 (LO14:00)  
 17:30~23:00 (LO22:00)



私の家内もここからの景色が大好きです



古き良き古都足利を見渡すパノラマビューを楽しみながらの食事は最高です。昼夜を問わず、家族で、仲間同士でどうぞ。私はビアガーデンを利用しています。

**石川や菓子店**

TEL 0283-62-0320  
 住 佐野市橋本町1773  
 営 8:00~18:00くらい  
 休 月曜日(2月は無休)  
 ※「しんこまんじゅう」がなくなり次第、営業終了



2色(つぶあん)80円

3色(こしあん)80円



食べると1年を無病息災で過ごせる

篠崎建設(株) 荒井良昌さん

食べる1年を無病息災で過ごせるといわれる。佐野市田沼町のしんこまんじゅう。毎年3月に行われる一瓶塚稲荷神社(いっぺいづか・いなりじんじゅ)初午祭の名物です。起源は、一瓶塚稲荷の境内で売られていた土産まんじゅうだったといわれています。それが、材料の「上新粉」と「信仰」にひっかけてしんこまんじゅうと呼ばれるようになったとか。上新粉を練って作った皮は、柔らかすぎず固すぎず。その中にほどよい甘さのあんこが詰まっています。つぶあん、こしあんがあります。見分け方は2色ちよんちよんと色付けされているのがつぶあん、3色がこしあんです。しんこまんじゅうはもちもち感が特徴で一日で硬くなってしまいます。

**イダ食品**

TEL 0284-41-8359  
 住 足利市本城2丁目1791  
 営 10:00~19:00  
 休 日曜日

(株)岡ノ谷組 岡ノ谷欣也さん



地元の建設業者が作るもち米を使用



草もち 1個 120円

美人弁天の先の三差路を西に入ったイダ食品の人気商品「草もち」は、ヨモギ100%の深い緑色と、ほのかに香る若草の香りが食欲をそそります。地元の建設業者が作るもち米とうち米をブレンドして弾力となめらかさを出した草もち、「あん」と「きな粉」の2種類。評判を聞いて、桐生、太田、佐野、岩舟からも注文が入るといいます。「本物はやっぱり違う」。「その日のものは、その日のうちに」をモットーにしており、電話による予約が必要です。1個120円。





## 道の駅 どもんなか たぬま



- 定休日 毎週 水曜日  
※1月1日・2日  
※水曜日が祝日の場合は営業
- 問い合わせ 道の駅 どもんなか たぬま  
〒327-0313  
佐野市吉水町366-2  
TEL0283-61-0077  
http://domannaka.co.jp/

### 北関東道沿線上で唯一の足湯オープン!



**たぬま温泉  
の足湯**  
※ご利用無料

### ▼農産物直売所「朝採り館」



ユニークな駅名は、佐野市の田沼地区に日本列島の中心地があるからです。日本列島の東西南北の基準点を線で結び、その線が交わる中

心点が佐野市(旧田沼町)にあります。まさに「どもんなか」の街なのです。佐野市は万葉集にも詠われた歴史と文化の郷であり、おいしいものとして佐野ラーメンやいもフライが有名です。

道の駅には自慢の本格中華料理の店「花と華」をはじめ、和洋食レストラン、手作りジェラート、たい焼き・たこ焼の店、焼きそば・豚まんの店、手作りパンなどおいしいお店がたくさんあります。

農産物直売所では、地元産の新鮮な野菜類やブランド米、おすすめの物産品が充実。特産品コーナーでは、全国から集められたバラエティに富んだこだわりの特産品が並んでいます。

イベントも盛りだくさんに企画し、夏には恒例の「お化け屋敷」、冬には10万球以上が輝くガーデンイルミネーションを開催。音楽やパフォーマンスイベントなど、皆さんが楽しめるエンターテイメントが行われています。

## あしががフラワーパーク



- 定休日 なし  
※開園時間は季節により変更
- 入園料 花の咲き具合により変動  
2013年10月26日～2014年1月26日  
※2013年12月31日は休園  
(イルミネーション夜間料金)  
大人 600円・小人 300円
- 問い合わせ あしががフラワーパーク  
〒329-4216 足利市迫間町607  
TEL0284-91-4939  
http://www.ashikaga.co.jp/

### 大藤のイルミネーション (写真左)

藤色の花房は、春の時期を想像させます。風に揺らめく様はまるで本物のような見ごたえです。

### スノーワールド (写真右)

西の山側を見上げてください!

### ▼アメジストセージ



### ▼バラ



栃木県足利市堀込町に早川農園として開園、1996年2月に大藤4本を現在地に移植しました。移植は日本の女性樹木医第1号である塚本こなみ氏によって行われ、日本で初めての成功例となりました。園内はフジ以外にも数多くの花々や植物で彩られていて、春か

ら秋にかけて市内外から数多くの来場者が訪れます。

目玉であるフジ(ノダナガフジ3本、八重黒龍1本、白フジのトンネル式)は栃木県天然記念物に指定され、これらが見頃となる4月中旬から5月中旬に「ふじのはな物語」と称する藤まつりが開催されます。この時期にはバスツアーが多く組まれたり、富田駅・足利市駅に停車する臨時列車が多く運行されます。

草花が停滞期とされている12月～1月はイルミネーション「光の花の庭」が開催されます。イルミネーション「光の花の庭」は、合計で約210万球を使った大規模なものであり、東京ドイツ村(千葉県袖ヶ浦市)・江の島「湘南の宝石」(神奈川県藤沢市)とともに、夜景観光コンベンション・ビューローが認定する「関東三大イルミネーション」に指定されています。

## 職場の“花”から“戦力”へ

# 頑張れ「ドボジョ」!



男の聖域といわれた土木業界に女性の進出が目立っている。名付けて「ドボジョ」。土木関係の職場で働く女性を最近はこちらで呼ぶ。少女マンガの主人公としても登場し、注目度は高まる一方だ。かつては職場の“花”のような存在だった女性社員が立派な“戦力”として活躍しているのである。株生駒組(本社・那須塩原市、生駒憲一社長)に勤務する藤田真由美さんもそんな「ドボジョ」の一人である。

専門学校で建築学を学び、就職活動の際、「設計をしたのなら現場を知らなければいけない」と、建設会社を勧められ、地元の建設会社に就職しました。

当時の社長はいかにも職人気質であり、ちょっと怖いイメージでしたが、見た目とは全く違い、とてもやさしく接してくれました。自分の仕事を誇りとし、納得のいくまで事に打ち込む性格で、手抜きや言い訳はせず、約束したことは無理してでも必ず守るという人でした。

一方、現場での仕事はとても厳しく、下請さんや職人さんにも怒られ、くじけそうになる時がたくさんありましたが、同僚や先輩に支えられ少しずつ成長することができました。

初めのころは、ヘルメットを被って現場にいと、職人さんたちに「びっくりしたな～!女の子かい?」と驚かれ、からかわれたりもしました。しかし、経験を重ねていくうちに、周りにも認めてもらい、今では、「マユねーさん」などと呼ばれています。

女だからと甘く見られたくないので、何事も率先して行うようにしています。体力で負けてしまう分、女性ならではの観点で物事を考え、行動することなどを心がけています。

一口に土木と言っても仕事はさまざまです。道路や橋、トンネルの建設、河川の整備やダム建設、上下水道・電気・ガス・通信設備など私たちの生活に直接関わってくるものから、空港や港湾施設の整備、公園や宅地の造成など、社会を支える縁の下での力持的な役割も担っています。

世間には「公共事業=悪」という考えを抱いている人もいるようで、残念でなりません。しかし、私たちが生活する上で必要不可欠な公共事業なのです。それを理解

してほしいと思います。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、那須地区にも大きな被害をもたらしました。復興作業は困難を極めました。地域の皆さんが



▲女だからと甘く見られたくない



▲黒部ダムにて



▲心強い仲間たち

心から喜んでくれて、「ありがとう!建設屋さんを見直した」という感謝の言葉をいただいた時は、本当にうれしく、この仕事をしてよかったと思いました。

建設業は男性社会というイメージが強い職場です。しかし、2007年までは禁止されていたトンネル内での労働も可能になるなど、女性が胸を張って堂々と働ける環境になりつつある今、私たちのような建設業で活躍する女性は今後ますます増えていくと思います。近い将来、代理人表彰を女性技術者が受賞できる時がくるかもしれません。

これからも建設業の仕事に自信と誇りを持ち、そして少しでも地域に貢献できるよう頑張っていきたいです。

株式会社 生駒組 工事部建築課 藤田真由美

